

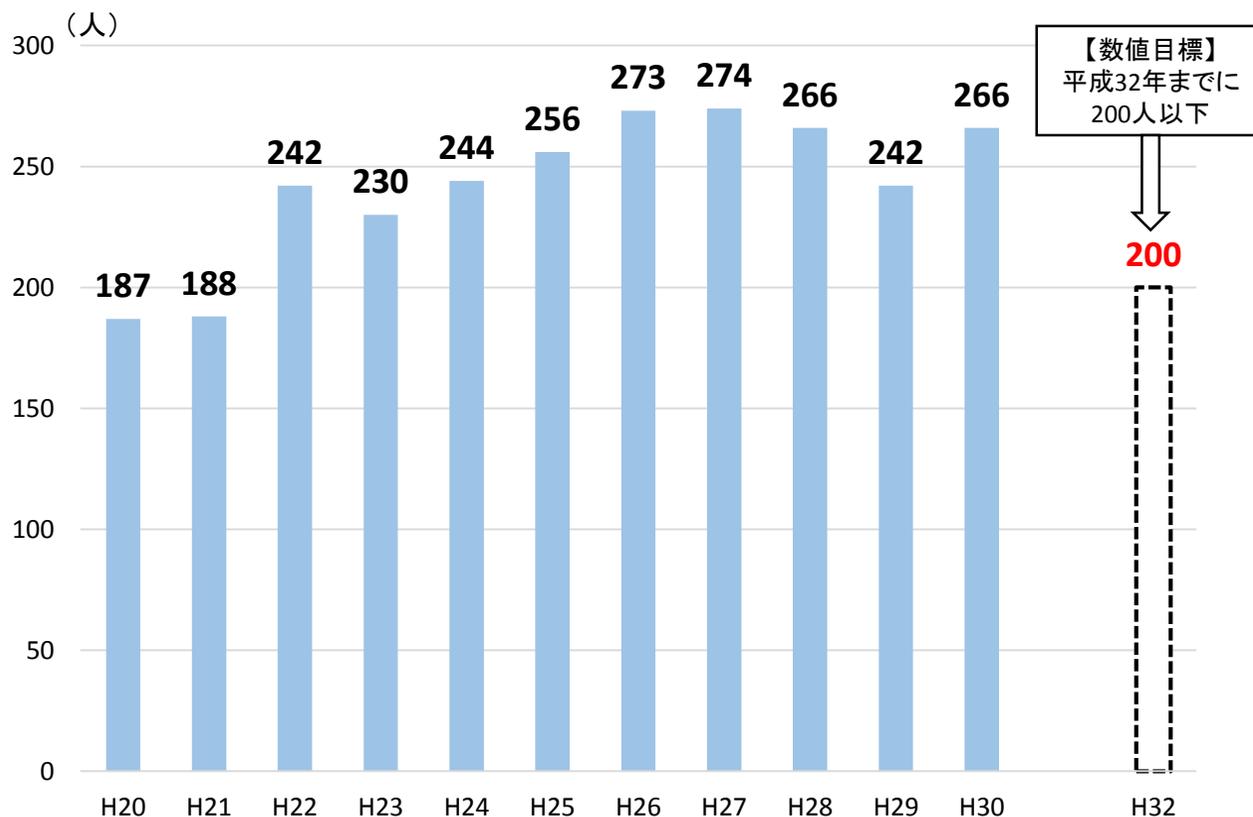
高齢運転者による死亡事故に係る分析(1)

～ 80歳以上高齢運転者による交通事故死者数の推移 ～

資料1

- 平成30年における80歳以上の高齢運転者による事故死者数は266人となった。

80歳以上高齢運転者による交通事故死者数の推移



※ 第1当事者が原付以上の死亡事故を計上している。

高齢運転者による交通事故防止に向けて
(平成29年6月30日高齢運転者交通事故
防止対策ワーキングチーム)(抄)

4 高齢運転者による交通事故防止対策に おける数値目標

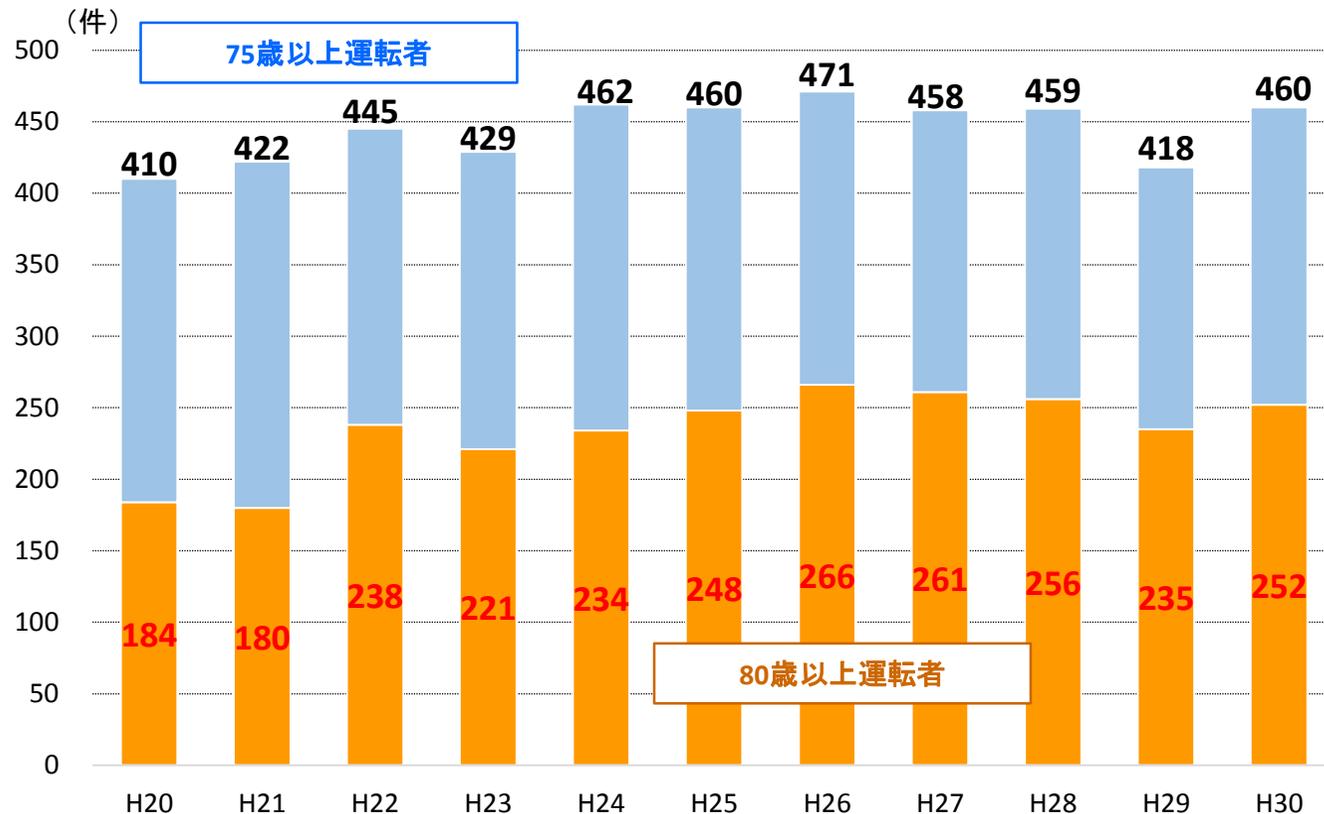
本対策を実施するに当たり、年間の80歳以上
の高齢運転者による交通事故死者数を、平成32
年までに200人以下とすることを目指す。

高齢運転者による死亡事故に係る分析(2)

～ 75歳以上高齢運転者による死亡事故件数の推移 ～

- 75歳以上、80歳以上の高齢運転者による死亡事故件数は横ばい傾向であるが、平成30年は前年と比較して増加

75歳以上・80歳以上
高齢運転者による死亡事故件数



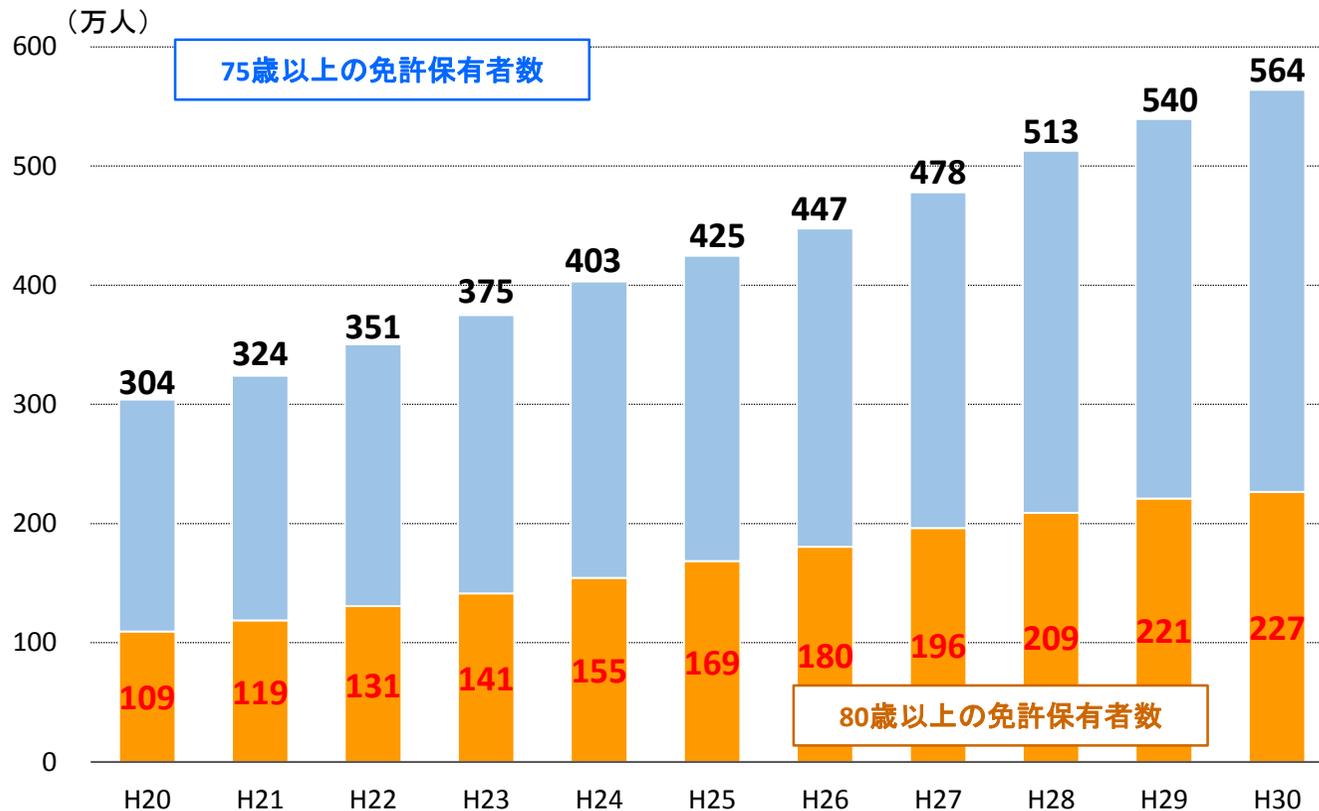
※ 第1当事者が原付以上の死亡事故を計上している。

高齢運転者による死亡事故に係る分析(3)

～ 75歳以上・80歳以上の運転免許保有者数の推移 ～

- 平成30年の75歳以上・80歳以上の免許保有者数は、平成20年と比較して、75歳以上は約1.9倍、80歳以上は約2.1倍に増加しており、75歳以上・80歳以上の免許保有者数はともに増加を続けている。

75歳以上・80歳以上の運転免許保有者数の推移



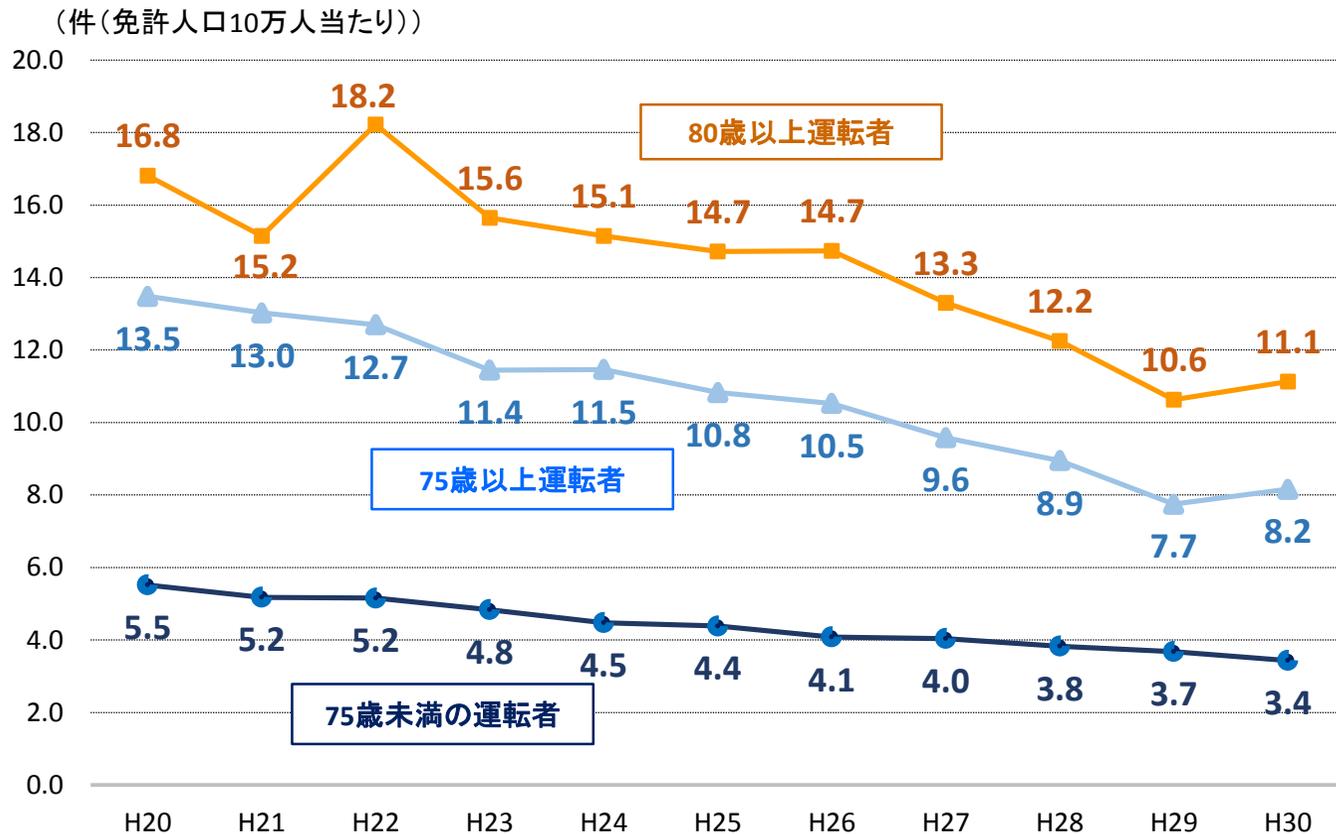
※ 各年12月末の運転免許保有者数である。

高齢運転者による死亡事故に係る分析(4)

～ 免許人口当たりの死亡事故件数の推移 ～

- 75歳以上、80歳以上の高齢運転者ともに、免許人口10万人当たり死亡事故件数は、平成30年は前年と比較して増加したが、過去10年では減少傾向

高齢運転者による死亡事故件数の推移（免許人口10万人当たり）



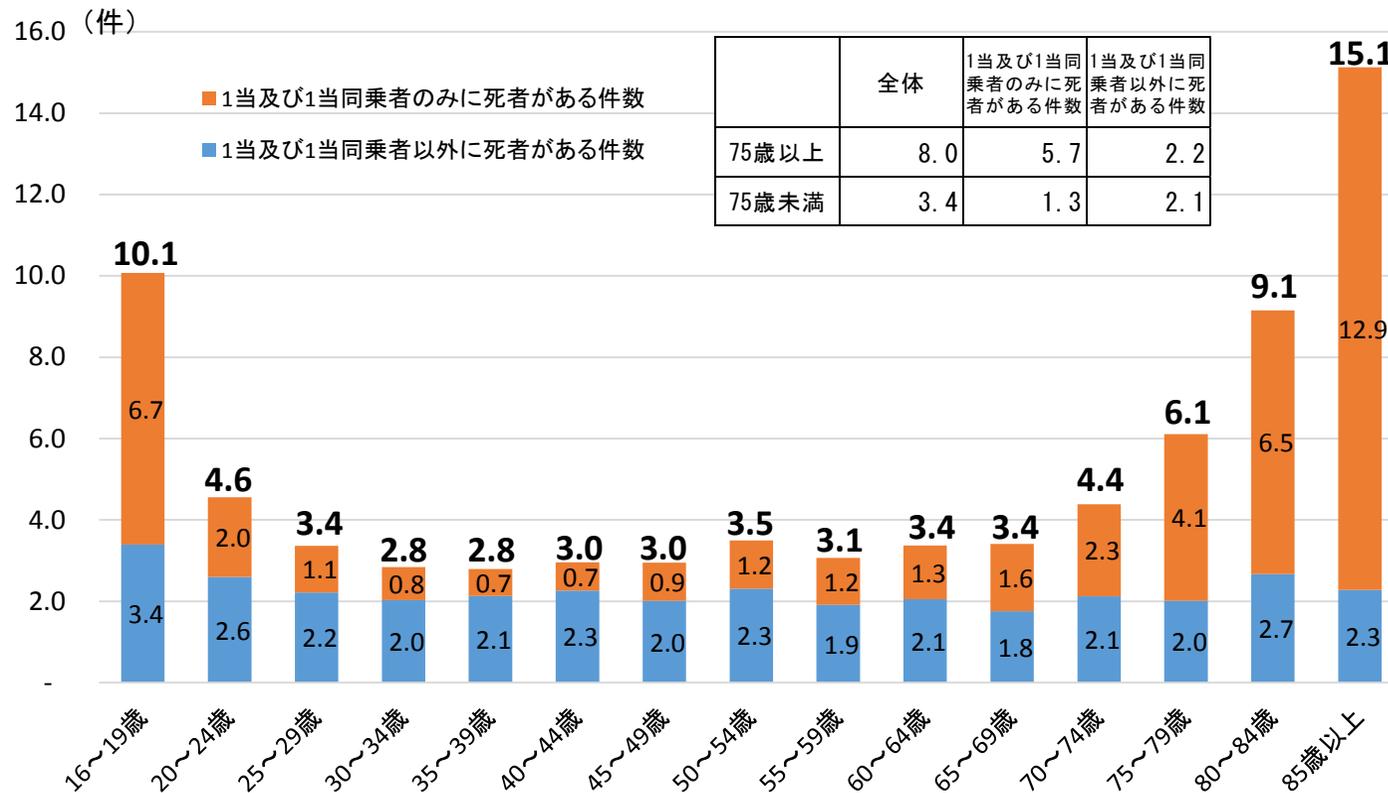
※ 各年12月末の運転免許保有者数で算出した。
※ 第1当事者が原付以上の死亡事故を計上している。

高齢運転者による死亡事故に係る分析(5)

～ 年齢層別の免許人口当たり死亡事故件数 ～

- 免許人口当たりの死亡事故件数をみると、75歳以上の高齢運転者は、75歳未満の運転者と比較して死亡事故が多い。
- 1当及び1当同乗者以外に死者がある事故件数は、75歳以上の高齢運転者と他の年齢層で大きな差はない。

年齢層別の死亡事故件数（免許人口10万人当たり）（平成30年）



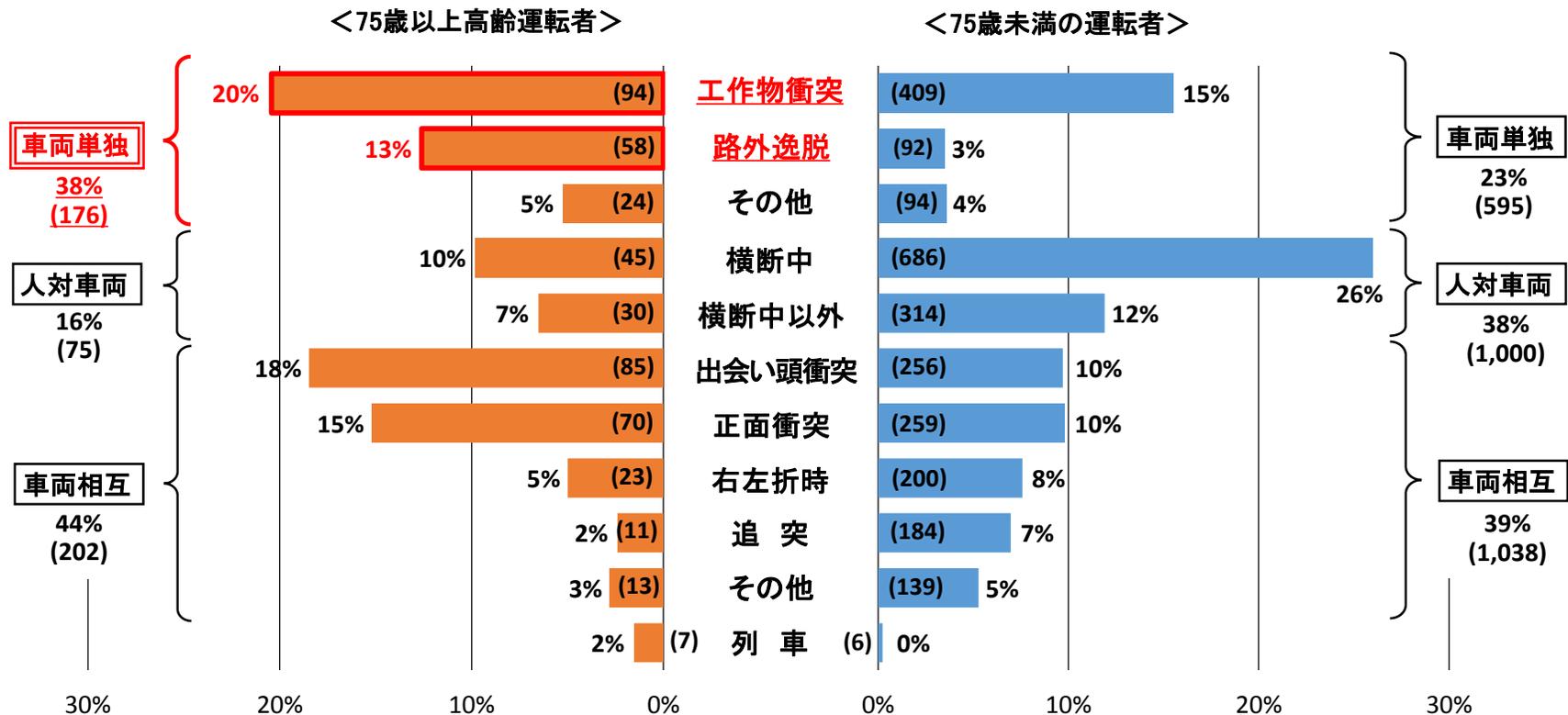
- ※ 算出に用いた免許人口は、平成30年12月末現在の値である。
- ※ 「1当及び1当同乗者以外に死者がある事故」については、1当及び1当同乗者に死者がある場合を含む。
- ※ 無免許の件数を除く。
- ※ 第1当事者が原付以上の死亡事故を計上している。

高齢運転者による死亡事故に係る分析(6)

～ 75歳以上高齢運転者による死亡事故の類型別件数比較 ～

- 75歳以上の高齢運転者による死亡事故は、75歳未満の運転者と比較して、車両単独による事故が多くなっており、具体的には工作物衝突や路外逸脱が多く発生している。

死亡事故の類型比較（平成30年）



死亡事故件数: 460件

死亡事故件数: 2,639件

※ 第1当事者が原付以上の死亡事故を計上している。

高齢運転者による死亡事故に係る分析(7)

～ 75歳以上高齢運転者による死亡事故の人的要因別件数比較 ～

- 75歳以上の高齢運転者は、操作不適による事故が最も多い。
- そのうち、ブレーキとアクセルによる踏み間違い事故は、75歳未満が全体の1.1%に過ぎないのに対し、75歳以上の高齢運転者は5.4%と高い。

死亡事故の人的要因比較（平成30年）

